

## 中山間地のweb会議活用の広がり



新見市在宅医療・介護連携支援センターまんさく  
松本 信一

## 報告内容

1. 取り組みの経緯
2. 事例の紹介
  - ・デスクカンファレンスでの利用
  - ・入所前面接での利用
3. web会議の実績
4. 考察

## 1. 取り組みの経緯

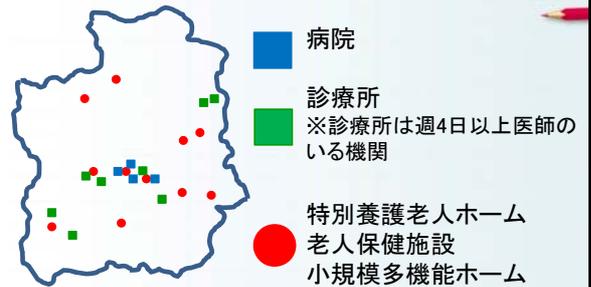
### 岡山県新見市

- ・面積 793km<sup>2</sup>
- ・人口 29074人
- ・高齢化率 **41.1%**  
(R1.12月)



中山間地で冬場の積雪が多い地域

## 新見地域の医療機関・介護施設



病院は市中心部に集中しており、介護施設は点在している

## 新見地域の現状

- ・医療機関が市中心部に集中
- ・介護事業所が点在
- ・医療・介護従事者の不足
- ・冬場の山間部は積雪60cm以上
- ・県南病院・施設までは片道80km



⇒移動に時間がかかるため、タイムリーな連携が困難

5

## web会議の取り組み

### 目的

医療・介護の連携会議に、多職種がweb会議で参加できるようにすることで、少ないマンパワーを有効活用し、より具体的な支援の検討、広域連携の推進を図る

### 実施主体 新見医師会

H28年度 備北保健所新見支所から受託  
H29年度～ 新見市から受託

## web会議の連携図



## 利用したweb会議システム

システム名: シスコのwebex

### 選択理由

- ①導入、利用が簡単
- ②契約方法が利用者毎ではなく、1拠点毎のため個別の契約が不要
- ③セキュリティーに配慮した通信が可能
- ④映像7箇所、音声のみ25箇所まで同時接続可能

## 機器の貸し出し

### ●常時貸し出し施設

- ・新見市内医療機関 4ヶ所
  - ・薬局、訪問看護、行政 4ヶ所
  - ・高梁市 医療機関 1ヶ所
  - ・倉敷市 医療機関 2ヶ所
- ※内1ヶ所は独自機器利用

### ●その他の施設

その都度、必要機器を貸し出し

## web会議利用の流れ

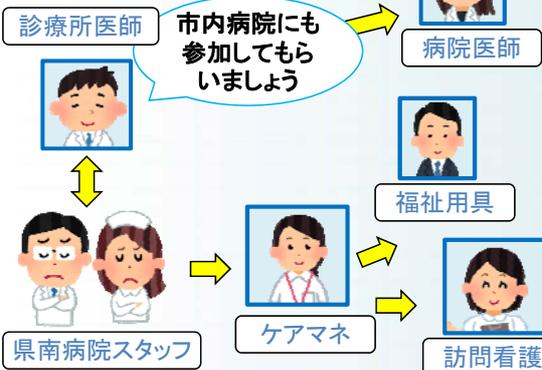
1. 各機関の担当者が本人・家族へweb会議の同意を取得
2. まんさくへ利用申込み
3. まんさくで必要機器、電波状況の確認
4. 会議当日のセッティング (まんさくからの支援含む)
5. web会議開催
6. 実施後のアンケート(改善点等について)

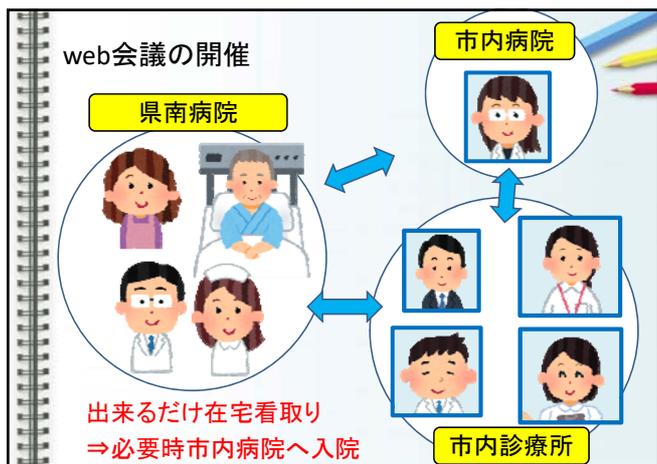
## 2. デスカンファレンスでの利用事例

末期がんで県南病院に入院中のA様



## web会議の調整





### 会議後の経過

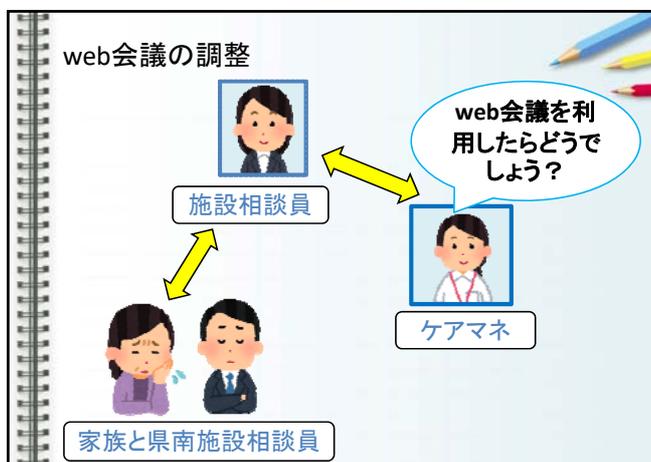
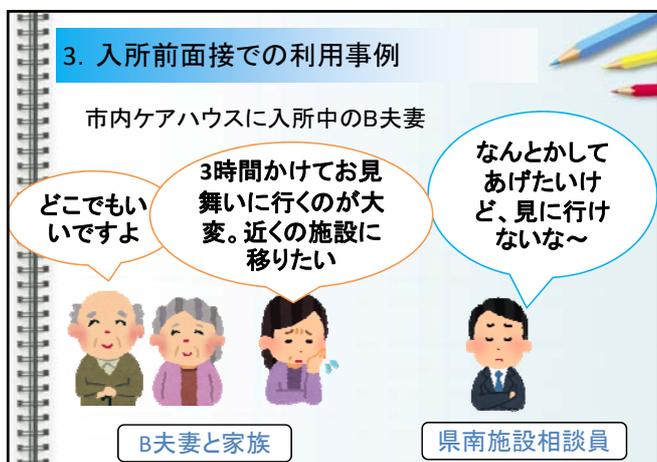
web会議の2週間後、自宅へ退院  
⇒ 数日後、体調悪化  
⇒ 家族の希望で、市内病院へ入院  
⇒ 数日後永眠される

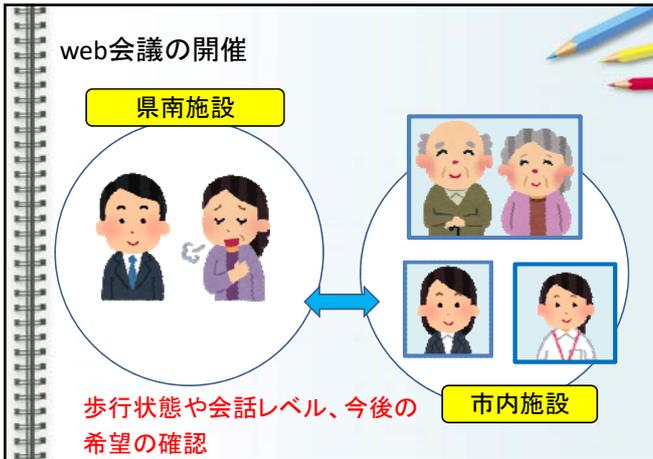
⇒ 数日後、県南病院の呼びかけでデスカンファレンスを開催(家族参加無し)

### デスカンファレンスの開催

- 県南病院医師: ご家族が納得されていたか心配。
- 診療所医師: 家族は出来るだけのことは出来たと満足されていた。また、お線香をあげにいき、話を聞いてみます。
- 病院医師: 事前に顔を見て話が出来ていたため、スムーズに受入が出来た。
- ケアマネ: 家族は最期は病院になったけど、色々な方に助けていただき、出来るだけのことはしてあげられたと話されていた。満足されているご様子だった。

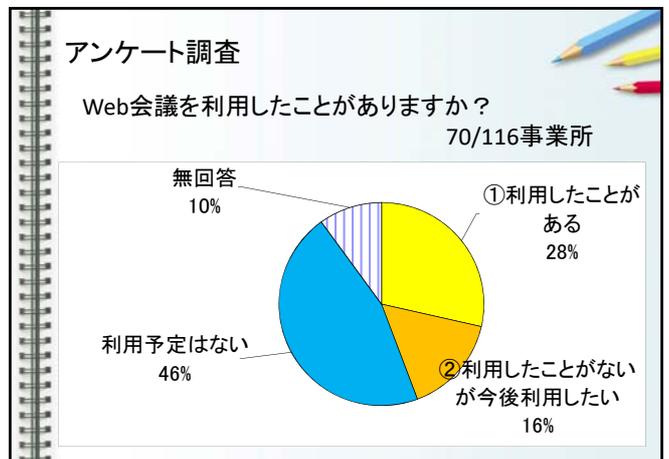
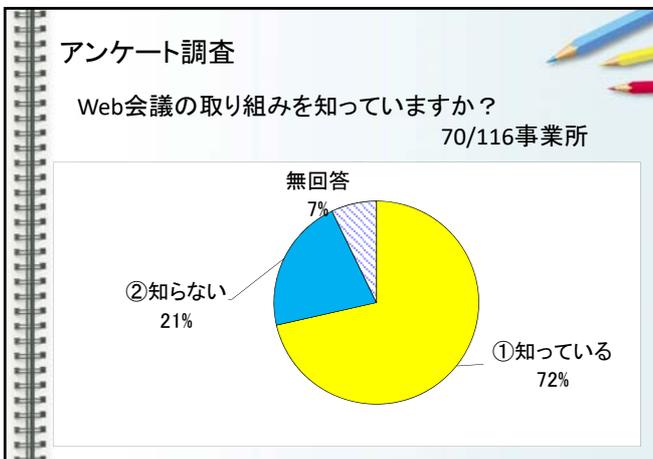
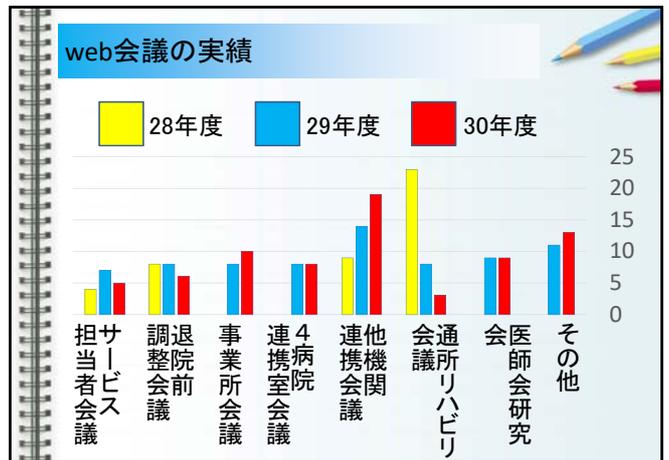
⇒ web会議の活用により、県南病院に在宅療養の結果をフィードバックできた





### 入所前面接の感想

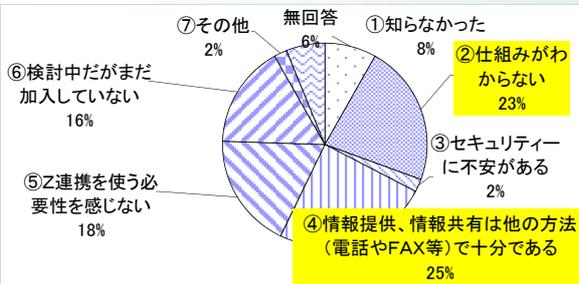
- 県南施設相談員  
:面接のために3時間をかけて訪問することは困難。顔を見ながら、歩行状態等を確認できよかった。
- 市内施設相談員  
:面接にweb会議で参加でき、顔を見て話をしながら、ご様子をお伝えできて良かった。
- 家族  
:面接のためだけに県南まで行くのは大変だったのでよかった。  
⇒web会議の活用により、日ごろの状況を良く知っている職員が参加でき、より詳細な情報共有が行えた



## アンケート調査

### Web会議を利用しない理由

32/70事業所



## 考察

### web会議の活用場面

事業所内での勉強会や通所リハビリ会議への利用から、県南病院と訪問看護の情報交換、県南病院と市内病院の転院前の情報交換等、他機関との連携会議の利用が増加してきている

また、当初想定していなかった利用方法として、デスクカンファレンスや入所前面接の利用があった

⇒患者、家族の負担軽減とともに、従事者がつながることで、より適した医療・介護サービスを提供できる

## 運用の問題点

新規利用事業所、貸し出しを受けていない事業所の場合、担当者が直接訪問して支援している

⇒日程調整に苦慮する場合あり

⇒広域的に統一されたweb会議システムが必要

⇒晴れやかネット ケアキャビネットに期待しています

## 今後に向けて

新見地域ではこれまで情報共有ツール「Z連携」、web会議システムを運用してまいりましたが、広域連携を実現するため、来年度より晴れやかネットケアキャビネットに参加させていただく予定です。

引き続き様々な場面で、有効な利用方法を検討し、多職種連携を推進していきたいと考えております。

ご清聴ありがとうございました。